

平成 29 年度文部科学省委託事業
「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」

公開保育を活用した幼児教育の質向上システム

E C E Q

実施園ハンドブック



平成 30 年 3 月

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

目次

はじめに	3
1. ECEQ（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）の流れ	5
STEP 1 ヒアリング・打合せ	6
(1) ECEQコーディネーター来園に際して ECEQ実施園が準備するもの	
(2) 日程調整	
STEP 2 事前研修	7
(1) 研修の流れ	
(2) 次回の園内研修について	
STEP 3 公開保育へ向けての準備	8
(1) 「問い」作り	
(2) 「問い」ボードの準備	
(3) 公開保育の計画を立てる	
(4) 参加者に公開保育の意図や「問い」を周知する準備	
(5) ECEQ実施園が準備するものについて	
STEP 4 公開保育当日	16
(1) 会場準備	
(2) オリエンテーション	
(3) 保育の公開	
(4) 午後の分科会に向けて	
(5) 分科会（協議会）	
(6) 全体会	
STEP 5 振り返り	19
2. ECEQ実施記録について	20
参考様式 様式1 申請書	22
おわりに	24

〇はじめに

質の高い幼児教育を目指して

～ECEQコーディネーターと共に園の良さと課題を明らかにすることから～

現在、幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることが一層の深まりをもって認識がされています。幼稚園や認定こども園（以下、幼稚園等とする）において、環境を通じた質の高い幼児教育が行われることは、きわめて重要です。

学校評価は組織的、継続的に教育の改善を図り、保護者や地域社会から理解と参画を得ながら、信頼され魅力ある幼稚園づくりを進めること等を目的としています。

公的な教育を担う私立幼稚園等としては、独自性を失わずかつ独善に陥らないために学校評価に積極的に取り組む必要があります。しかし、現状としては学校評価の中でも最も重要な自己評価がうまく機能せず、園としての課題が明確になっていない園も多く見受けられます。そのような園の園長や主任においては、幼稚園教諭・保育教諭（以下、保育者とする）が会議や園内研修に主体的に参加できていないことや教育実践の振り返りができていないこと等を課題と挙げつつも、どのように改善していけばよいか困惑しているのが現状です。

また、現在、乳幼児施設等で実施されている第三者評価においても、外部の専門家による評価で外部監査的であるという指摘があり、子供の育ちにおいて最も重要である教育実践の内容やプロセスについての視点が不十分である等、実際の現場における教育の質の向上に至るまでの課題は山積しているように見受けられます。

そのような現状を踏まえ、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下、本財団）では、幼稚園等が公開保育を実施し、外部の視点を導入することによって、自園の教育実践の質向上に繋げていく学校評価実施支援システム「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」の開発を進めてきました。平成29年度からは「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」Early Childhood Education Quality Systemの頭文字をとってECEQ(イーセック)とし、この取組の更なる普及を目指しているところです。

ECEQの核はECEQ公開保育です。普段通りの保育場面を他園の複数の保育者が見学し、公開保育の参加者とECEQ実施園の保育者とが意見交換をしながら、自分たちだけでは分からなかった自園の良さや課題を見付けていきます。また、その過程において園内のコミュニケーションを活性化し、同僚性を高める手法を学びます。ECEQを実施することによって、教育活動におけるPDCAサイクルが機能するようになり、教育の改善に繋げることが期待できます。

ECEQ公開保育は、本財団が認定したECEQコーディネーターが、一連の取組の始めから終わりまでサポートしてくれるため、今までに公開保育をしたことがない園でも安心して実施することができます。ECEQコーディネーターは、ECEQ実施園を評価したり指導したりするのではなく、ECEQ実施園の保育者たちの話を深めたり課題を整理する補助をしたり、公開保育当日に参加者との対話を促したりする存在です。

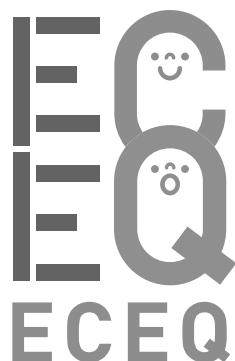
ECEQの取組が実りあるものとなるように、ECEQコーディネーターがECEQ実施園に寄り添いながら支援していきます。

また、このシステムは、私立幼稚園としての理念や地域事情の違い等に配慮しつつ、幼稚園教育要領等の理念に基づいた教育を大切にしており、ECEQ実施園はもとより公開保育に参加した保育者にとっても幼児教育の質について考えたり、対話と内省を重ねることの重要性について学んだりする機会を提供しています。まさに、ECEQはECEQ実施園と公開保育の参加者とECEQコーディネーターとが共に学び合い、育ち合いながら幼児教育の質向上を目指すシステムとなっています。

ECEQを実施することによって、地域から信頼される、開かれた幼稚園・認定こども園として、その教育実践の質が向上し、「やってよかったECEQ」という声が全国に広がっていくことを願っています。

※本ハンドブックにおいては、幼稚園における幼児と幼保連携型認定こども園における園児をまとめて「子供」とし、また、幼稚園教諭、保育教諭を「保育者」としております。

ECEQのロゴマークについて



Early Childhood
Education
Quality System
全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

ECEQの「E」を縦積みにして身長計のメモリに見立て「C」は幼児、「Q」は乳児を表し、背の高さの違いは子供の成長していく姿を表現しています。また、メモリはECEQが「評価スケール」の意味をもつことも示唆しています。

色のイメージ

赤色・・・命の源やエネルギー、たくましさ

水色・・・知性、思いやり、安定、平和

オレンジ色・・・情緒、親しみ、コミュニケーション

1. ECEQ（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）の流れ

段階	ECEQ実施園
事前	本財団の所定様式にて申請手続きを行い、ECEQコーディネーターの派遣を要請
STEP 1	ヒアリング・打合せ
	①園長・主任等によるECEQコーディネーターからのヒアリング ②今後の日程等についての打合せ
STEP 2	事前研修
	保育者による田の字ワークの実施から、自園の良さや課題を整理
STEP 3	公開保育へ向けての準備
	①園の課題を参加者と共有するための「問い」作りへ向けての園内研修の実施
	②公開保育当日の日程等の打合せと資料や会場等の準備
STEP 4	公開保育当日
	公開保育の運営
	①会場準備
	②オリエンテーション
	③保育の公開
④保育後の分科会への参加	
⑤全体会への参加	
STEP 5	振り返り
	参加者からの「問い」への意見や感想等を基に、課題に応じた園内研修の実施

STEP5終了後

①ECEQ 実施記録の提出

ECEQ実施園は、STEP 2から STEP 5までの ECEQ実践記録を、STEP 5終了後、ECEQコーディネーターに提出します。研修風景やワークの内容等も写真で記録をし、ECEQ 実施記録に添付するとわかりやすいものとなります。特に形式はありませんが、電子媒体で作成していただき、データで ECEQコーディネーターに送付していただくことになります。詳しくは20ページを参考にしてください。

②ECEQ実施園アンケートの記入

ECEQの調査研究のために本財団からのアンケートへご協力をお願いいたします。園長、教頭等を含めた全保育者が記入後、本財団まで郵送ください。



STEP 1 ヒアリング・打合せ

ECEQコーディネーターが来園し、ECEQ公開保育の流れの説明や、園長や主任に対するヒアリングを受けます。

(1) ECEQ コーディネーター来園に際して ECEQ実施園が準備するもの

- ・ 建学の精神や園の歴史、教育理念、教育目標等がわかるパンフレット等
- ・ 教育課程
- ・ 指導計画、月案や週日案等
- ・ 自己評価の状況がわかるもの（自己評価公表シート等）

(2) 日程調整

今後の研修の進め方や公開保育等の日程を ECEQコーディネーターと話し合い、この一連の取組に関する計画を立てます。それに伴い、ECEQ実施園が公開保育開催の案内発送や公開保育参加者の募集等を行いますので、ECEQコーディネーターと相談しながら計画的に準備を進めましょう。

ECEQ 実施園ハンドブックの位置付け

このハンドブックは、ECEQによる公開保育を実施する園が、公開保育当日までの園内研修、公開保育後の園内研修までの見通しを持つことができるよう、その道先案内として作成しました。ワークの内容等一つ一つの詳しい内容については、ECEQ実施園の保育の現状や同僚性によっても異なりますので一つの型にあてはめることは難しく、その場その場でECEQコーディネーターと相談しながら共に研修を進めていくこととなります。したがって、このハンドブックはあくまでも ECEQの大枠を捉えるための一例を記したものと理解してください。ECEQの道筋で疑問なこと、不安な点は ECEQコーディネーターに直接お尋ねください。



STEP2 事前研修

ECEQコーディネーターと保育者とでワークを行い、自園の良さや課題を園全体で共有するところからスタートします。

(1) 研修の流れ ※ECEQコーディネーターが進行します。

①ECEQ コーディネーターより挨拶と説明

ECEQ（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）について

②ワークの実施（ワークの時間は2時間が目安となります。）

ECEQコーディネーターと共に、自園の良さや課題、課題解決に向けての見通し、目標等を保育者間で話し合いを行います。

【ECEQ 実施園が用意するもの】（1グループ6名として参加人数分）

- 付箋（7.5 cm×5 cm）
- 模造紙
- 水性ペン（黒と何色かカラーがあるとよいです。）
- ホワイトボード
- マグネット
- お菓子⇒ワークを円滑にするためのアメやチョコレート等

(2) 次回の園内研修について

次回の園内研修の内容等について、また公開保育当日に向けての準備についてECEQコーディネーターと相談します。



STEP 3 公開保育へ向けての準備

公開保育当日に参加者に見てほしいポイント等を整理し、「問い」作りをします。
また資料の作成や会場の準備等、公開保育に向けての準備を行います。

(1) 「問い」作り

① 「問い」とは何か

このハンドブックの中でも、すでに何度も使われている「問い」という用語について説明します。

「問い」は、公開保育当日に、参加者からのフィードバック（質問・意見・感想等）をもらうための仕掛けで、保育室やコーナーなど、園内の何カ所かに掲示したり、配布資料に記載したりします。実践を見た参加者は、その「問い」に対する質問・意見・感想等を付箋に書き込んで、ボード等に貼り出します。「問い」が媒介となって、ECEQ実施園と参加者の間にコミュニケーションが生まれます。せっかく公開保育をするので、参加者からは、教育・保育の質の向上に寄与するフィードバックをたくさんもらいたいものです。そのためには、「実践のどこを見てほしいのか?」「何を聞きたいのか?」「どのようなことを教えてほしいのか?」、ECEQ実施園から参加者に具体的な投げかけが必要です。つまり「問い」を設定するということは、「このような視点で実践を見てください!」「このようなテーマについての意見をください!」というメッセージを伝えて、参加者に「窓」を与えることとなります。参加者は、主にこの「窓」を通して実践を見るので、ECEQ実施園が抱える課題に多くの目がフォーカスされます。質の向上につながるフィードバックを得るためには、参加者に適切な「窓」を与えることが欠かせません。だからこそ、「問い」作りは重要なのです。

② 「問い」作りにおいて大切にしたい視点

I この時期の「子供の様子」や「育ちの姿」

園としての願いや思いが先行してしまわないように、あくまでも今、この時期の子供の様子や育ちの姿から、教育・保育を考える視点を大切にしましょう。

★子供の様子や育ちの姿

「今、子供たちはこんなことに興味を持っています。」

「子供たちはこんな様子です。」

II 幼稚園教育要領等を踏まえ、自園の教育理念や教育課程を通じて、子供の今の姿をどのように援助していくのがよいか、保育者の願いや考えていること。

この時期の子供の様子を基に、保育者が意識していることや保育者の願いを参加者に伝え、園が大切にしていることを明らかにしましょう。

★私たちが目指していること・ねらい・課題

「今、私たちはここを大事にしています。意識しています。」

「こんなことを話し合っています。」

Ⅲ 「保育者の願い」を具体的にするために環境の構成や援助等でしたこと、していることの工夫や手立て

保育者が意識していることや保育者の願いを、どのように実践してきたのか、環境の構成や具体的な援助等を、簡潔に伝えましょう。その実践によって、子供たちがどのように育っているかについても触れるとよいでしょう。

★課題を解決するための実践と子供たちの姿

「だから、こうしています。こんな実践をしています。」

「子供たちはこんなふうに育っています。」

Ⅳ それでよいのか、さらによい方法があるのか、設定した視点でよいのか等、参加者に聞きたいこと、教えてほしいこと、伝えたい悩み等。

★具体的なアドバイスを得るために

「ねらいとしていることは、実践できているでしょうか。」

「他にはどうしたらよいでしょうか。」

「より良くするためには、更にどうしたらよいでしょうか。」

③「問い」作りにおいて気を付けたいこと

- 丁寧に記述すると長文になり、参加者に読んでもらいにくかったり、読むことに時間が掛かってしまいます。できるだけ短く、読みやすくするとよいでしょう。要点を押さえて読みやすく書くことが大切です。
- 大まかな「問い」であれば、大まかな答えしか返ってきません。聞きたい内容の答えが出るような、参加者が答えやすい具体的な「問い」がよいでしょう。
- 各学年で共通の内容については、資料にまとめて記入する等、資料の作り方も工夫しましょう。
- 公開保育の参加者から適切な意見を得るために、資料等の配付物や掲示物があったほうがわかりやすいでしょう。
- どの時期に公開保育をするかによって、子供の成長の姿や実態が変化します。過去に実施した他園の「問い」を参照する場合には、公開時期に気を付けてください。
- 「〇〇の取組はどうか。」というような「問い」であると、よいか、悪いかのどちらかの意見しか出せないなので、具体的に意見がでるような「問い」にすることが大切です。

④「問い」の例

事例1) 課題 製作コーナーは・・・

行事や季節に沿った製作や素材を準備しています。現在は、子供たちが集めてきたどんぐりや落ち葉、枝などを使った製作、ハロウィンの製作など、いろいろな素材や道具を使い、想像力や表現力などが育つように援助しています。なかには、作ったものを持ち帰らず置きっぱなしにしている子供がいるので、作ったものに名前を付けたり、飾ったりなどして大切に扱えるようにしていますが…

問い

- ①自分の作ったものに愛着をもち、大切に扱えるようにしていくためのよい方法がありましたら教えてください。
- ②素材や道具は十分でしたか。今日用意した素材や道具の他に、違うものがありましたら教えてください。
- ③子供たちは充実して遊べていましたか。製作をしている姿を見て気付いたことがありましたら教えてください。

※この「問い」に対して、実際に貼られた付箋のコメント

- 様々な素材や道具が種類ごとに分けられていて、大きめの入れ物に収納されていることで、子供たちが取り出しやすく片付けやすい環境だと感じました。
- 「公園で拾ってきたんだよ」と、子供が教えてくれました。体験が遊びに繋がっていますね。
- 作り方を図示したり、伝え過ぎてしまい、みんな同じような出来になっていませんか？
- この活動で体験したことを他の遊びに繋げる仕掛けもあると、より主体的に夢中になれるのでは？
- 実現したことの喜びに、もう少し寄り添う援助があるといいのでは？



事例2) 【課題】話しを聴く態度を身に付けてほしい・・・

年長組

明るくおしゃべりが好きで、自分の意見を積極的に言える子が多いにぎやかな学年です。「こうしたい!」「こう思う」と主張することも良いのですが、落ち着いて互いの意見や話を最後まで聞く態度が身に付いてほしいと思っています。そのために、子供たちと話し合っって約束を決めたり、話し方を工夫したりしています。

問い

- (1)学級活動中、落ち着かず話が聞けない時、どのような対応をされていますか。
- (2)話を聞く態度を身に付けるためには、どのような工夫や保育者の関わり方が必要だと感じられましたか。

事例3) 【課題】トラブルを子供自身で解決するには・・・

年長児

学級を越えて、鬼ごっこやリレー、お店屋さんごっこなどをして遊ぶ姿が見られます。しかし、相手の話を聞くより「自分は…!」という自己主張の方が強くなってしまうため、言い合いばかりが続いてしまうことがあります。トラブルを子供たち自身で解決できる力を身に付けてほしいと思い、話し合いをしたり、他の人の意見を聞くことも大切であることを言葉だけでなくペープサートなどを使ってわかりやすいように伝えたりしています。

問い

- (1)子供たちが遊び込めるための学級の環境設定、材料の提供は適切でしたか。
- (2)学級活動中の保育者の子供への声掛けはいかがでしたか。

事例4) 【課題】 保育者の振舞いや声掛けは・・・

年少児

友達と遊ぶことが増え、関わりが持てるようになってきましたが、その中で玩具を取り合ったり、順番を待たずトラブルになったりすることもあります。「貸して」「まだ遊びたいのに」と言うことがあるので、保育者は互いの気持ちを伝え、そのことについて、子供たちと話し合ったり、ルールを決めて使うようにしたりしています。

問い

- (1)遊びや学級での活動中の保育者の立ち位置は、いかがでしたか。
- (2)相手の気持ちがわかっていても、なかなか玩具を譲ることができない場合、どのように声を掛けていけばいいですか。

事例5) 【課題】 気持ちをうまく伝えられるようになるには・・・

年中児

友達同士で声を掛け合って遊ぶ姿が見られるようになってきました。その一方で集団になかなか入れない子供や、遊びたくてもうまく自分の気持ちを伝えることができずにちょっかいを出してしまう子供もいます。

言葉で思いを伝えられるよう、「ぼくも入れて」「一緒に遊ぼう」など、具体例を示すようにしています。

問い

- (1)集団の中になかなか入れない子供や、ちょっかいを出してしまう子供に対してどのような声掛けをしていますか。
- (2)友達の遊びに興味を持てるような環境、関わりで工夫できる点があれば教えてください。

(2)「問い」ボードの準備

公開保育当日に、「問い」を明示して、「問い」に対するフィードバック（付箋）をもらう、掲示用の「問い」ボードを準備します。

付箋を貼ってもらうためのボードなので、次のようなことに留意して作成しましょう。

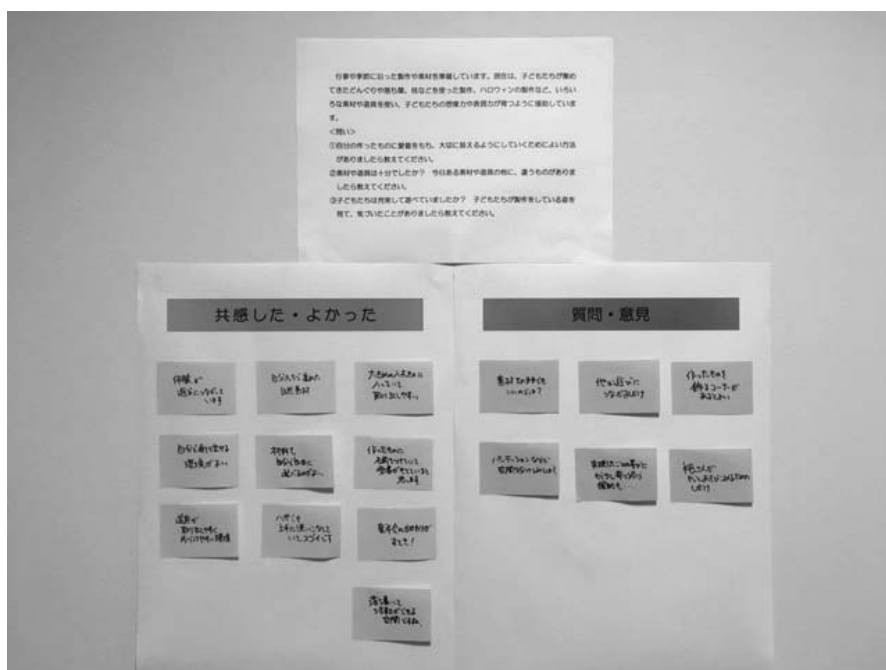
①貼りやすさ

- 参加者の人数に合わせて、ボードの大きさを考えましょう。スペースが狭すぎると、付箋を重ね貼りしなくてははいけません。参加者が慣れているかどうかにもよりますが、1人2枚くらい貼るとするのが一応の目安になります。
- 「問い」に対するフィードバックは、「共感した・よかった」などのポジティブなもの、と、「質問・意見」などの示唆的なものに分類されることが多いですが、はじめから2つのスペースに分けておくと、参加者は考えやすく、貼りやすく、さらに貼られたものも見やすくなります。ただ「問い」によっては2つに明確に分類されるものばかりではないので、ECEQコーディネーターと相談してボードの様式や付箋の色を決めるとよいでしょう。

②整理しやすさ

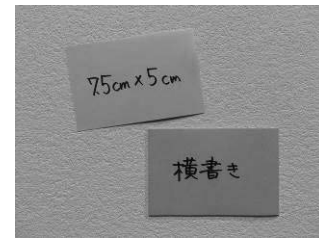
- 午後の分科会に向けて、貼ってもらった付箋をすぐに整理しなければなりません。問いによっては、参加者には、フィードバックの内容に合わせて付箋の色を変えて書いてもらったほうがよいでしょう。例えば、「共感した・よかった」などのポジティブな意見は桃色で、「質問・意見」などの示唆的なものは青色にするなどです。

「問い」ボードの例



☞どんな付箋がいい？

様々なサイズの付箋が市販されています。
おすすめは、7.5 cm×5 cmのサイズです。
これを横向きにして、横書きしてもらいましょう。
意見の要点だけを書いてもらうのに適切なサイズです。
分科会等では、言葉で補足してもらい、
話し合いを深めていきましょう。



(3) 公開保育の計画を立てる ※公開保育当日の流れについて計画を立てます。

【時程例】

- 9：00 受付
- 9：30～10：00 オリエンテーション
- ※ECEQ 公開保育は、まだ慣れていない人が少ないため、この公開保育は何をするためのものか、参加者も共に学び合うことができるように、「問い」の意味や、参加者の意見や感想を付箋に書くこと、その付箋の活用の仕方等を含め説明を行い、意識の共有を図ります。
- ※園長挨拶、一日のスケジュールについて、昼食の案内、撮影の可否、ECEQコーディネーターの自己紹介等もこの時間内に行います。
- ※この時間に、午後の分科会はこの学年（またはどの学級）に参加し協議をしたいのか、参加者の意向を確認しておきます。場合によっては、参加する分科会をECEQ実施園の方で指定することもあります。
- 10：00～12：00 公開保育
- 12：00～13：00 昼食
- ※昼食後、この時間内に分科会を担当するファシリテーターとECEQ実施園の保育者は、貼り出された付箋の内容を見ながら、分科会の持ち方について打合せを行います。
- 13：00～14：30 分科会
- ※参加者からECEQ実施園に対しフィードバックを行います。「問い」に対する付箋を基に話し合いを行います。
- 14：30～14：45 移動・休憩
- 14：45～15：30 全体会
- ※分科会で話し合った事を全体で共有します。各分科会での協議内容をECEQ実施園の保育者が発表します。
- 15：30 解散

★オリエンテーションの進行は、ECEQ実施園でもECEQコーディネーターのどちらでも構いません。事前に相談して決めておきます。

★分科会の人数
一つの分科会の人数はあまり多くない方が話し合いも進みます。ECEQ実施園の規模にもよりますので、学年毎である場合等、参加者数等が決まった段階でECEQコーディネーターと相談します。

★分科会のファシリテーター
分科会の数だけファシリテーターが必要になります。ファシリテーターの必要人数や依頼に関して、また分科会の進め方については、事前にECEQコーディネーターと打合せを行います。

(4) 参加者に公開保育の意図や「問い」を周知する準備

ECEQ公開保育について、まだ周知が進んでいないことが想定されるため、公開保育の参加者を募る案内文書にも、ECEQの概要やECEQ公開保育の意図を簡単に記載して理解を得ておきましょう。また、公開保育当日のオリエンテーションでは「問い」の意味や付箋の活用法などについて、ECEQコーディネーターと協力して参加者に伝えるようにしましょう。

(5) ECEQ 実施園が準備するものについて

項目	準備する物	チェック欄
参加者数の把握	一般参加者（地域内の園の保育者） ECEQ実施園関係者（学校関係者評価委員、地域の方、行政関係者等）、ECEQコーディネーター	
配布資料	○園の概要、教育方針、担任名、学級数等がわかる資料 ○実践のテーマ、日案、週案等がわかる資料 ○会場案内図（荷物置場、各学年、トイレ、昼食場所、全体会、分科会の会場が示されている園内マップ）	
配布物	○名札 ○フィードバック用付箋 ○水性ペン	
受付	○受付用名簿 ○受付用長テーブル ○スリッパ(参加者に持参してもらう場合も有)	
掲示物	○会場案内のための表示 (全体会会場・分科会会場・昼食場所・トイレ・立入禁止場所等)	
昼食	○昼食場所（休憩の際のお茶等）	
会場	○控室（参加者により、必要に応じて） ○受付場所 ○荷物置場 ○オリエンテーション・分科会・全体会等の会場設定 ※参加人数にもよりますが、分科会の会場は学年毎になるので、学年分の部屋を用意するとよいでしょう。	
問いの 掲示場所	○作成した「問い」ボードを設置する場所の設定 ○これまでの取組等、実践に関する掲示物	
分科会で 使用する もの	※分科会でのグループは5～6人が1ユニット ○模造紙（グループ数分） ○付箋 (参加者一人につき二色の付箋各3～5枚×学級数×人数分) ○水性ペン（参加者分 ※ペンを参加者に持参してもらう場合は事前の案内に書き加えるとよいでしょう。） ○ホワイトボード	

STEP 4 公開保育当日

いよいよ公開保育当日です。緊張の一日ですが、普段通りの実践ができるよう ECEQ コーディネーターのサポートを受けながら、明るく元気に始めましょう。

(1) 会場準備

公開保育当日の朝に ECEQ コーディネーターと一緒に確認を行います。

- ・受付
- ・各会場（オリエンテーションや分科会の会場等）
- ・使用機器や用具（マイク、ホワイトボード等）
- ・「問い」ボードの設置が正しくできているか確認します。

(2) オリエンテーション

公開保育についての留意点や ECEQ 実施園の紹介を当日資料に沿って園長等が説明します。撮影の可否、一日のスケジュール、付箋の使い方、問いへの答え方、昼食の案内、施設の案内等、あまり長すぎる事のないように進めます。ECEQ コーディネーターの自己紹介も、ここで行います。



(3) 保育の公開

参加者は午後の分科会の学年を中心に見学します。



(4) 午後の分科会に向けて（昼食時間）

この時間をういて各分科会のファシリテーターと ECEQ 実施園の保育者は、午後からの分科会で取り上げたいテーマ等を「問い」ボードに貼られた付箋を読みながら整理していきます。

※ファシリテーターは「進行係」です。

ファシリテーターが必ずしも ECEQ コーディネーターでない場合もあります。



(5) 分科会（協議会）

分科会は参加者からの貴重な「フィードバック」の場であり、公開保育の最も重要な時間です。参加者からスムーズにフィードバックを得るため、頂いた付箋を基に話し合います。ファシリテーターは和やかかつ、活発に話し合いができるような場作りをしていきます。

【用意するもの】

- ・フィードバック用付箋
- ・ホワイトボード
- ・模造紙
- ・A4白紙
- ・水性ペン

○対話体形

ECEQ実施園の保育者、ファシリテーター、参加者が車座になります。

○対話の進め方 ここでも一例を紹介します。

①ファシリテーターによる自己紹介

所属、名前、現在の自分の心持ち、ECEQ実施園等への謝辞等

②ファシリテーターによる分科会の進め方の説明

【話し合いのルール】

- ・分科会は、粗探しをする場ではありません。
- ・ECEQ実施園の成長を願って感想を述べ合うことが大切です。
- ・ECEQ実施園の聞きたいテーマを取り上げましょう。
- ・限られた時間を有効に使いましょう。

③ECEQ 実施園の保育者による自己紹介

- ・学級、経験年数、名前等

（例）付箋に書いてもらった中で一番嬉しかった1枚を選んで語ることから始める等

④参加者による自己紹介を兼ねた感想を述べ合う。

- ・園名、担当、経験年数、名前等
- ・気付いた点、共感した点、興味を持った点、なるほどと思った点等を話してもらいます。

⑤ECEQ 実施園保育者による話題提供

ECEQ 実施園の保育者からは下記の点について話題提供を行います。

- 本日の実践のねらい
- 分科会で参加者から聞きたいこと（問い掛け）

⑥参加者からのフィードバック

ECEQ 実施園の保育者は、発表に対してコメントがあればその都度話します。その場合、参加者に更に聞きたいことがあれば続けても構いません。

⑦ファシリテーターがクロージング

(6) 全体会 ※全体会の持ち方にも定型はありません。ここでも一例を紹介します。

分科会で話し合った事を全体で分かち合う時間を取ります。

各分科会で話された内容を ECEQ 実施園の保育者が発表し、どのようなことに気付いたり学んだりしたのかを参加者全員で共有します。

○進行 司会は ECEQ コーディネーター、または ECEQ 実施園の保育者（教頭・主任等）が務めます。

（進行例）

①開会

②ECEQ 実施園の保育者から発表

分科会で話されたことを、各分科会の代表の保育者が発表します。

③発表を受けて質疑応答

④閉会 ECEQ 実施園を代表して園長または理事長が挨拶します。



STEP5 振り返り ～課題に応じた園内研修～

公開保育において参加者から得た感想や意見を基に、ECEQ 実施園の全保育者で『振り返り』のワークを行います。

公開保育を通して得られた情報を基にして「自園の良さで更に伸ばしていきたいこと」「課題や改善していきたいこと」に取り組むための方法等について、保育者間で理解、共有し、ECEQ コーディネーターと共に具体的に取り組むイメージを明確化するワークショップです。

このワークショップでは単なる情報共有ではなく、この後に何をどう取り組めばよいかまでをイメージできるようにします。基本的には分科会において付箋を項目毎にまとめた模造紙をそのまま利用して、分科会グループ毎にワークを進めていきます。

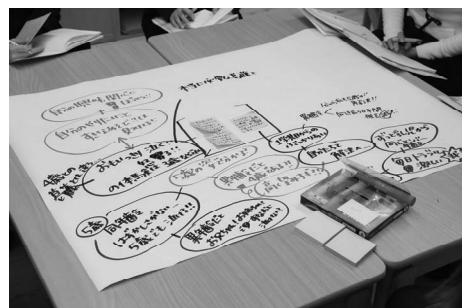
【用意するもの】

- ・公開保育当日の分科会でまとめた、付箋を貼った模造紙
- ・分科会で意見交換している中で、参加者の意見をまとめたもの
- ・STEP2で行った田の字ワークの模造紙と、その結果をまとめたもの
- ・模造紙 ・付箋 ・カラー水性ペン
- ・お菓子⇒ワークを円滑にするためのアメやチョコレート

※ワーク全体の所要時間は1時間半から2時間が目安です。

公開保育当日の午後の分科会は、学年毎やテーマ毎で、いくつかのグループに分かれて実施される場合が多いでしょう。公開保育当日には、全体をまとめきることができないために、STEP5ではまず公開保育当日の分科会の内容を園の全保育者のこととして皆で共有する時間とします。しかし、ただ漠然と情報共有をしても効果が半減しますから、大きく次の二つの柱立てを意識します。

- ア 「自園の良さ」について
- イ 「自園の課題や改善していきたいこと」について



2. ECEQ実施記録について

STEP 2からSTEP 5を通じて、ECEQ実施園が気付いた自園の良さや課題について記載します。研修の様子やワークシートの写真等の添付をしておくとうわかりやすいものとなるでしょう。

特に形式はありませんが、A4サイズ電子媒体で作成し、ECEQコーディネーターへデータで提出してください。下記基本情報については、ECEQ申請書の形式をそのまま転用してお使いください。

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報											
法人名												
理事長名												
園名												
園長名												
担当者名	役職名					氏名						
住所	〒											
電話番号												
FAX 番号												
メールアドレス												
園児数	人											
学級数と人数	年長組	学級	名	／	年中組	学級	名	／	年少組	学級	名	
	満3歳組	学級	名	／	2歳児	名	／	1歳児	名	／	0歳児	名
教職員数	人											

派遣コーディネーター名					
研修履歴	STEP1	平成	年	月	日
	STEP2	平成	年	月	日
	STEP3	平成	年	月	日
	STEP4	平成	年	月	日
	STEP5	平成	年	月	日

(例) ECEQ実施記録

各STEPについて	内 容
<p data-bbox="228 315 483 349">STEP 2について</p> 	<p data-bbox="868 315 1209 349">○田の字ワークの内容記録</p> <ul data-bbox="876 360 1235 443" style="list-style-type: none"> ・自園の良さと課題について ・保育者の感想等 
<p data-bbox="228 701 483 734">STEP 3について</p> 	<p data-bbox="868 792 1339 875">○「問い」作りまでのワーク内容の記録等</p>
<p data-bbox="228 1084 483 1117">STEP 4について</p> 	<p data-bbox="868 1084 1179 1117">○公開保育当日の様子等</p> <ul data-bbox="876 1128 1203 1164" style="list-style-type: none"> ・各分科会の内容について 
<p data-bbox="228 1467 483 1500">STEP 5について</p> 	<p data-bbox="868 1467 1291 1500">○公開保育後の園内研修の内容等</p> <ul data-bbox="876 1512 1235 1547" style="list-style-type: none"> ・公開保育で得た付箋の整理 

様式1 申請書

平成 年 月 日

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 田中 雅道 様

住 所

園 名

代表者名

㊞

平成 年度 E C E Q実施申請書

E C E Q (公開保育を活用した幼児教育の質向上システム) について、別紙のとおり実施を希望するので、申請いたします。

(申請書別紙)

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
1. 法人名	
2. 理事長名	
3. 園名	
4. 園長名	
5. 担当者名	役職名 氏名
6. 住所	〒
7. 電話番号	
8. FAX番号	
9. メールアドレス	
10.園児数	人
11.学級数と人数	年長組 学級 名 年中組 学級 名 年少組 学級 名 0～2歳児 名
12.教員	人
13.職員	人
14.ECEQ 公開保育実施予定日	平成 年 月 日
15.ECEQ コーディネーター名 (全員の名前を記載)	
16.備考	

<送付先>102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 4 階
 (公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 ☎03-3237-1957

〇おわりに

ECEQ（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）の開発に当たっては、本財団がこれまでの調査・研究を通して、全国の私立の幼稚園・認定こども園において、日々の実践の振り返りを行うための一つの手法として考えてきたものです。本研究の大きな特徴として、日々現場で子供たちと共に過ごす保育者が公開保育に参加し、その園の実践を見て、共に考え、振り返りを行うことでよりよいものにしてきたことが挙げられます。いわゆる「臨床」的立場で、現場の声を教育活動に反映させ、より質の高い教育実践が行われるようにと願ってのことです。本財団では、目の前の子供の姿から、また現場から学ぶといった姿勢を重視して、様々な研究研修事業を行っておりますが、今後も臨床的視点を十分に活用しながら、この取組を全国に普及させて参りたいと思っております。

子ども・子育て支援新制度が施行された今、この制度において教育・保育の質のどこがどのように改善され、子供たちの遊びや生活が充実し笑顔が増えたのかということを変更して検証することが必要となります。本財団が指向するこのシステムが、全国の幼児教育の質の向上に貢献することができれば幸いです。

これまで数年にわたり改善し続けた本システムは、時代と共に更なる改善が求められることは言うまでもありません。今後も改善を図りながら、幼児教育の質向上へ貢献して参りたいと思っております。

この「ECEQ実施園ハンドブック」が、実施園に寄り添い、貴園の教育・保育の質向上に寄与できれば幸いです。



■ 幼児教育の質向上を目指した学校評価の推進に関する研究検討委員会

田中 雅道	京 都・光明幼稚園
安家 周一	大 阪・あけぼの幼稚園
宮下友美恵	静 岡・静岡豊田幼稚園
加藤 篤彦	東 京・武蔵野東第二幼稚園
川原恒太郎	大 分・ひまわり幼稚園
藪 淳一	北海道・大通幼稚園
小野寺靖子	宮 城・しげる幼稚園
高倉 幸世	千 葉・コスモス幼稚園
佐藤 緑郎	埼 玉・大宮みどりが丘幼稚園
西片紀美子	長 野・松本光明幼稚園
村手 敦	愛 知・九品寺幼稚園
濱名 浩	兵 庫・立花愛の園幼稚園
水原 紫乃	広 島・焼山こぼと幼稚園
岡本 和貴	徳 島・わかくさ幼稚園
淵 和子	福 岡・霧ヶ丘幼稚園
吉井 健	鹿児島・認定こども園信愛こどもの園
岡本 潤子	青 森・千葉幼稚園
亀ヶ谷忠宏	神奈川・宮前幼稚園
安達 譲	大 阪・せんりひじり幼稚園
黒田 秀樹	福 岡・きらきら星幼稚園
秦 賢志	兵 庫・はまようちえん
永田 陽子	東 京・大和郷幼稚園
関 政子	東 京・やはた幼稚園
関岡 貴之	東 京・認定こども園多摩みゆき幼稚園

■ 協力者

岡 健 大妻女子大学教授

本報告書は、文部科学省の「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託費による委託業務として、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が実施した平成29年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究の成果を取りまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

